

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4751560号

(P4751560)

(45) 発行日 平成23年8月17日(2011.8.17)

(24) 登録日 平成23年5月27日(2011.5.27)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 51/18 (2006.01)

B 6 5 D 51/18 H

B 6 5 D 47/36 (2006.01)

B 6 5 D 51/18 F

B 6 5 D 47/36 F

請求項の数 6 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-584136 (P2001-584136)
 (86) (22) 出願日 平成12年5月23日(2000.5.23)
 (65) 公表番号 特表2003-533412 (P2003-533412A)
 (43) 公表日 平成15年11月11日(2003.11.11)
 (86) 国際出願番号 PCT/IT2000/000209
 (87) 国際公開番号 W02001/087729
 (87) 国際公開日 平成13年11月22日(2001.11.22)
 審査請求日 平成19年4月26日(2007.4.26)
 (31) 優先権主張番号 M12000A001087
 (32) 優先日 平成12年5月17日(2000.5.17)
 (33) 優先権主張国 イタリア(IT)

(73) 特許権者 502241866
 タルモン, エミリオ
 イタリア カナゼイ アイ-38032,
 ヴィア パレダ, 70
 (74) 代理人 100079980
 弁理士 飯田 伸行
 (72) 発明者 タルモン, エミリオ
 イタリア カナゼイ アイ-38032,
 ヴィア パレダ, 70
 審査官 佐々木 正章

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 缶詰飲料用の補強シールを備えた缶の着脱式蓋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

円錐台形開口(12)と、該円錐台形開口に連続する円筒形トップ(13)とを有し、
 舌片(20)を引っ張ることによって開缶できる缶詰飲料用缶(130)に使用する着脱
 式蓋(140)において、

前記蓋は、

円錐台形本体(143)と前記円錐台形本体(143)に連続する下向きU字形の縁部(142)と、前記縁部(142)に連続する凸形ベース(141)と、

前記円錐台形本体(143)の内壁の上側端部に設けられた第1環状シールリブ(14
5)と、前記円錐台形本体(143)の内壁の下側端部に設けられた第2環状シールリブ
(147)と、

前記第1環状シールリブ(145)から短い間隔をおいて前記第1環状シールリブ(1
45)と前記第2環状シールリブ(147)の間に位置した第3リブ(146)と、

前記蓋(140)の外側の、前記縁部(142)と前記円錐台形本体(143)とが隣
接する付近の一部に設けたフック(150)と、

前記フック(150)に嵌合され、前記蓋の外側の、前記縁部(142)と円錐台形本
体(143)とが隣接する付近に係合されるシールリング(155)とからなり、

前記フック(150)の内形および大きさは前記シールリング(155)の厚みおよび
形状に対応し、前記フック(150)は軽く押したときに前記シールリング(155)が

10

20

嵌合するように、大きさが上記厚みよりも小さい下部開口を有し、

前記シールリング（１５５）は、前記フック（１５０）が形成するヒンジを中心として可動であることを特徴とする着脱式蓋（１４０）。

【請求項２】

前記シールリング（１５５）の内径が、係合位置における前記蓋（１４０）の外径よりも小さい請求項１記載の着脱式蓋（１４０）。

【請求項３】

指（１６０）によって、前記フック（１５０）の直径方向に対向する領域にある前記シールリング（１５５）に圧力を加え、このシールリングを持ち上げ、前記フックが形成するヒンジを中心にして該シールリングを回して、前記缶（１３０）から前記蓋（１４０）を外すのに十分な引っ張り力を発生するように構成した請求項１又は２に記載の着脱式蓋（１４０）。

【請求項４】

前記シールリング（１５５）は、前記蓋（１４０）を持ち上げるさいに、指（１６０）による作用を補助する把持タブ（１５７）を固着した請求項３記載の着脱式蓋（１４０）。

【請求項５】

前記シールリング（１５５）をプラスチックで構成した請求項１～４のいずれか１項に記載の着脱式蓋（１４０）。

【請求項６】

前記シールリング１５５を金属で構成した請求項１～４のいずれか１項に記載の着脱式蓋（１４０）。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、缶詰飲料を対象とする缶に関する。

【０００２】

【従来の技術】

缶詰飲料用缶は広く利用されているが、飲用する場合には、表面の一部からストリップをプルアップし、開口した飲み口から飲用する。ストリップの後端には、缶の上面に平らに装着され、飲用時にプルアップされるリング・ピンが設けられている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

このような缶には、上面が輸送時や保管時に付着する恐れがあるほこりなどに対する保護手段がないため、大きな欠陥がある。

【０００４】

さらに、一旦開口した後は、再度これを閉じる方法がないため、中身が漏れたり、あるいは中身が劣化する恐れがある。

【０００５】

本出願人は既に２件の特許出願を申請しているが、いずれも缶上部の形状および外形寸法に対応する形状および内径寸法をもつ、缶詰飲料用缶の着脱式蓋に関するものである。

【０００６】

この蓋に、それぞれ円錐台形本体の始点および終点に実質的に対応する２つの内部環状シールリブを設け、中身を一部飲用した後に再度蓋を閉じることができるよう構成してあるため、残った中身をほこりなどに対して保護でき、風味などをそのまま維持できる。

【０００７】

本発明の課題は、これら先願発明による蓋よりもさらに効率のよい蓋を提供することである。

【０００８】

【課題を解決するための手段】

すなわち、本発明では、それぞれ缶の円錐台形始点および終点に対応する２つの内部環状シールリブの間に、上部リブから短い間隔をおいて第３リブを設ける。

縁部１４２と円錐台形本体１４３とが隣接する付近の一部に、蓋の周囲に耐引張り性をもつプラスチック、金属その他の材料からなるシールリングを設ける。

係合位置において、このシールリングの内径を蓋の外径よりもわずかに小さくし、蓋の内壁上で２つの上部環状リブ間に実質的に存在する領域に圧力を発生できるように構成する。

このシールリング位置では、蓋が、内側幅および形状が実質的にシールリングの形状および厚みに対応するフックとして作用する。下部開口を上記厚みよりも狭く構成するが、シールリングをここに押し込むことはそれほど困難ではない。

10

飲用するときには、フックと直径方向にほぼ対向する領域に指を掛け、シールリングを引き上げ、フックが構成するヒンジを中心にしてこれを回し、十分に引き上げると、缶から蓋を完全に引き離すことができる。

フックを蓋に一体化するのが好ましい。

また、シールリングに外側に表面を向けたタブを固着すると、蓋を引き上げるさい指の動きが容易になるためさらに有利である。

【０００９】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面にそくして本発明を説明する。

参照符号１３０は円筒形缶本体１１で構成した缶詰飲料用缶、１２は円錐台形開口、１３は円筒形トップ、そして１４０は着脱式蓋である。

20

【００１０】

蓋の凸形ベース１４１は、下向きＵ字形の縁部１４２に隣接して、缶１３０のＵ字形縁部１６とともに、ヘッド１５と実質的に同じ形状および大きさの円錐台形本体１４３を構成する。

【００１１】

３つの環状シールリブを蓋の円錐台形本体の内壁に取り付ける。具体的には、一つの環状シールリブ１４７（第２環状シールリブ）を本体の端部に、別な環状シールリブ１４５（第１環状シールリブ）をこの本体が円筒形上面になる点に、そして中間リブ１４６（第３リブ）を第１環状シールリブ１４５から少し離して設ける。

30

【００１２】

蓋１４０の外側の、縁部１４２と円錐台形本体１４３とが隣接する付近において、シールリング１５５をフック１５０に嵌合し、蓋と一体化する。

【００１３】

図示のように、開口１５６の小さな圧力によってフック１５０内部にシールリングを嵌合固定すると、フックに対向する側に把持タブ１５７が形成する。

【００１４】

図２１および拡大図から明らかなように、具体的には環状シールリブ１４５と１４６との間の領域において蓋の円錐台形本体１４３にシールリング１５５が圧力を加える。この圧力は、中身が一部気化した場合に、缶内部に発生する力を有効に相殺する圧力である。

40

【００１５】

缶トップから蓋を外すためには、指１６０を図２２に示す開口１５６に掛ければよい。

【００１６】

シールリング１５５を引き上げ、フック１５０が形成するヒンジを中心にしてこれを回すと、図２３に示すように、缶から蓋を外す十分な引っ張り力を得ることができる。

【００１７】

中身の一部が既に飲用されている場合には、通常の缶と同様に、舌片２０を押すことによって、蓋のベースのストッパー１４８を、缶を開けた最初の時点で形成された孔に押し込み、缶を気密封止し、蓋およびシールリングをその最初の位置に戻すと、残りの中身を確実に保存することができる。

50

【0018】

【発明の効果】

本発明の効果は次の通りである。

蓋内壁の2つのリブ間に第3の中間シールリブが存在し、また外部リングが求心作用を示し、かつ蓋壁の小さな圧力が2つの内部上部リブ間に作用するため、きわめて強力なシール作用がビールその他の飲料に発生する気体の力を相殺する。シールリングが係合するフックが形成するヒンジの位置に対向する位置で蓋のシールリングを持ち上げることができ、指によってこれを把持できるため、指でシールリングを強く引っ張ることによって、蓋を外すことができる。

また、蓋を缶に再度装着して、残りの中身を保護できるため、消費者にとってはきわめて便利であり、この種の缶詰製品の販売促進が可能になる。

10

【図面の簡単な説明】

【図20】 着脱式蓋に、内圧に反応しかつ缶を開けるさいに蓋に引っ張り力を与える周囲リングを設けた缶詰飲料用缶を示す図である。具体的には、蓋フック内部にシールリングを設け、このシールリングにフックに対向するタブを設けた場合の、拡大部分図を含む斜視図である。

【図21】 フックおよびタブを示す拡大図を含む、缶の一部長手方向断面図である。

【図22】 シールリングを持ち上げ、蓋を引っ張り外した缶の状態を示す図である。

【図23】 蓋を半分開けた状態にある缶を示す斜視図である。

20

【符号の説明】

12：円錐台形開口

13：円筒形トップ

20：舌片

130：缶

140：着脱式蓋

143：円錐台形本体

145、147：環状シールリブ

146：第3リブ

【図 20】

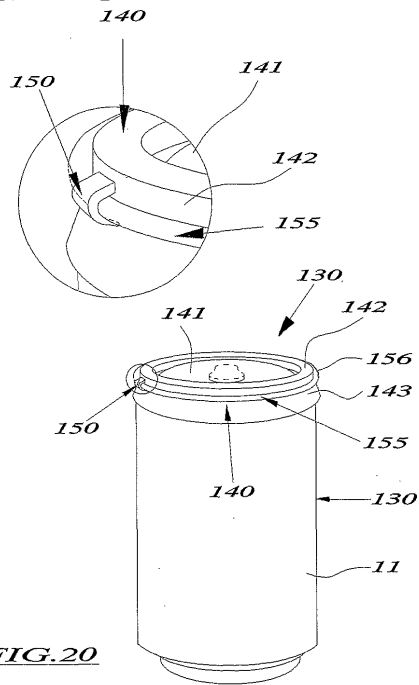
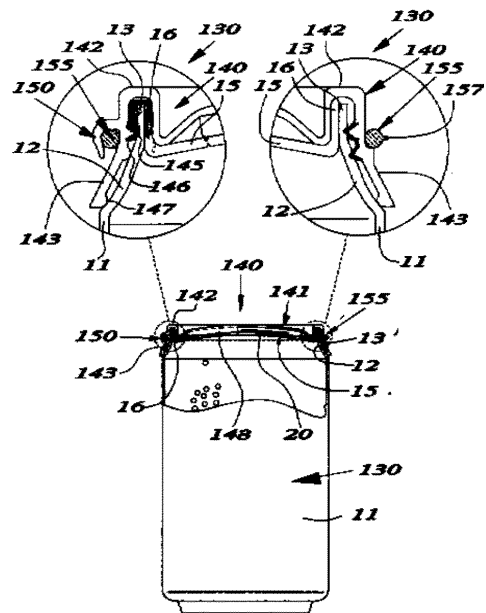


FIG. 20

【図 21】



【図 22】

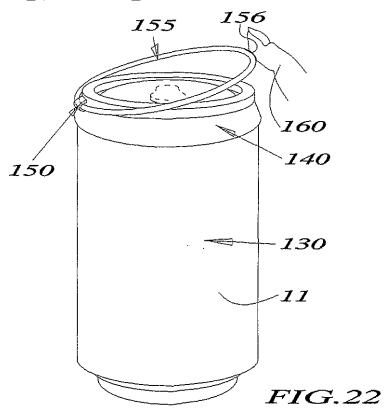


FIG. 22

【図 23】

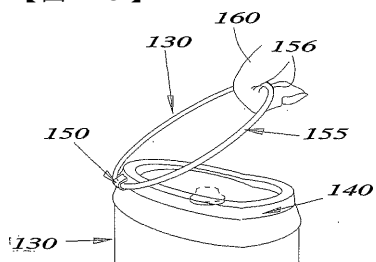


FIG. 23

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2000-109107 (JP, A)
実開昭55-145460 (JP, U)
実公昭44-004918 (JP, Y1)
実公昭48-003014 (JP, Y1)
実開昭61-183835 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 51/18
B65D 47/36